

2022年度活動報告

組込みシステム産業振興機構

1. 第1部会(教育事業)年間活動報告

2022年度 事業計画

1. 「組込み適塾」のブランド価値向上

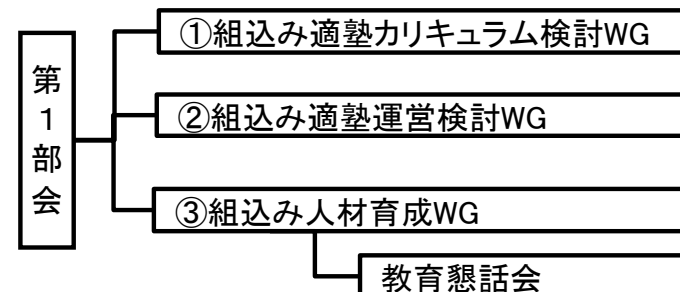
- (1) STEP6事業方針「十字型人材の輩出」を目指したカリキュラムの改善・拡充(①、③)
- (2) 多様な開催形態における円滑な運営(②、組込み適塾事務局)
- (3) アフターコロナを見据えた組込み適塾開催形態の検討(②)

2. 自由で活発な交流の“場”の提供

- (1) 関係者/講師/受講生間の人的ネットワーク形成の支援(②)

3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献

- (1) 「十字型人材の育成」に向けた新たな組込み人材育成施策の検討(③)
- (2) 「十字型人材の育成」をテーマとする教育懇話会の開催(③)



2022年度の実績

1. 「組込み適塾」のブランド価値向上

【目標】(1)受講生満足度85%以上継続。ビジネス・システムデザインコースの体系化と特別専門講座群の棚卸し完了。

(2)受講不可となるような重大なミスやトラブル0件。(3)次年度の開催形態決定。

【実績】オンライン開催を継続、一部はハイブリッドで開催。受講者数は微減ながら、一括受講増により一人当たりの受講講座数増。受講生満足度は88.0%

(1) 34講座(対前年-1)、42日間(対前年+4)で開催。コロナ禍により1講座を中止。2講座をハイブリッドで開催。

受講者数は178名(対前年-12)、延べ受講講座数は628講座(対前年-19)、一人当たりの受講講座数は3.54講座(対前年+0.13)。

受講機関数は24機関(対前年-6)。新規参加は前年並みであったが、リピータ会員が大幅減(対前年-7)。少数の会員への受講者の集中傾向が続く。

受講生満足度は88.0%で前年より3ポイント減で、一昨年並みに。事業計画目標の85.0%はクリア。講師からの評価は全指標で前年に引き続き改善。

ビジネス・システムデザインコースは2023年度に1講座新設し拡充、特別専門講座群はマネジメント系以外の講座は一定の役割を果たしたとして廃止。

(2) 集合形式、ハイブリッド形式、オンライン形式の講座が混在する中、受講受付業務や講座運営において受講不可につながるミスやトラブルはなし。

(3) ウィズコロナの時代を迎え、2023年度は4年ぶりに集合研修形式の講座主体の運営に戻す。但し、講師が希望する場合はオンライン形式を継続。

2. 自由で活発な交流の“場”の提供

【目標】コロナの状況を睨みながら、リアルでの交流会の開催。LMSの掲示板の利用数(講座数、スレッド数)対前年30%増。

【実績】入塾式・修了式および終了後の交流会をリアルで開催。講座終了後の交流会も2回開催。LMSを活用する講座数は増えたが、投稿数は減少。

(1) 説明会、入塾式・修了式、適塾見学会、式典終了後の交流会、講座後の交流会をリアルで開催。交流会は会食と歓談の時間を分けた2部制で実施。

LMSの掲示板を活用する講座は増えた(7→8講座)が投稿スレッド数は減少(20→9スレッド)。購読をpush型に変えたため質問の放置はなくなった。

3. 日本の組込みシステム産業発展への貢献

【目標】(1)新規人材育成施策の提案。教育懇話会(3回)開催。(2)新規講座提案2件。

【実績】教育懇話会を2回開催。うち1回のテーマと昨年度実施の教育懇話会テーマを元に2件の講座新設を提案し、2023年度新設が決定。

(1) 教育懇話会を2回開催。十字型人材の上流側人材育成ニーズの議論・整理を行ったが、人材育成施策の提案には至らず。

昨年度アークテクチャ設計コースに導入した優良修了認定制度の適用を実装エンジニアリングコースにも拡大。

(2) 昨年度開催の教育懇話会の1テーマと今年度開催の1テーマについて計2件の講座新設を提案し、2023年度に新設が決定。

2022年度 事業計画

1. 戦略的展示会開催による顧客価値創出型ビジネスへの商品提案力強化支援

- (1) 戦略的に展示会を開催し、出展先企業のDXニーズに応える商品提案の場を提供(①)
- (2) 出展先企業の要望に応じて、オンサイト型／オンライン型／ハイブリッド型など多様な開催方式での実施(①)
- (3) 出展先企業のニーズ情報取得、出展先企業との人脈形成など、出展成果向上のための施策実施(①)
- (4) 来場者・出展企業の評価を定量化し、施策改善に活用(①)

推進体制

ビジネス機会創出支援機能

①組込み開発企業
展示会検討WG

競争力強化支援機能

②先端技術力強化WG

第
2
部
会

2. プライベートセミナー、先端施設見学会による競争力強化支援

- (1) 会員に有益なテーマで競争力強化につながる講演を提供(②)
- (2) 組込み開発企業展示会と連携し、産総研講演を会員向けに実施(②)
- (3) 講師と参加者が一体となった活発な意見交換の場を提供(オンラインも活用)(②)
- (4) 先進取り組み施設見学と技術懇談により、触発機会を提供する先端施設見学会を開催(②)

3. WINKと連携し、参加チームの要望に応じた支援の場を提供

- (1) WINK参加チームからの要望に応じ、展示会、プライベートセミナーなど部会活動を活用した場を提供(①②)

2022年度の実績

1. 戦略的展示会開催によるビジネス機会創出支援

【目標】 年間2回開催。会員メリット向上のための継続的な施策改善。展示会の出展企業の成果の定量化、見える化。

【実績】 第19回組込み開発企業展示会を島津製作所対象に、オンライン型で開催。

- (1) 島津製作所にてオンライン開催、138名の参加。実績1回。コロナ禍が断続的に続いたことから、1社での開催にとどまった。
- (2) 前回オンライン展示会に対して、動画視聴や出展企業Webページリンクなどの展示手段を追加。後日連絡要望などの出展先とつながる手段を追加。
- (3) 島津製作所から会場に会場に、事前ニーズ説明会を開催。ハイブリッド開催とし、出展予定企業は会場参加、オンライン参加を選択。
- (4) 来場者、出展企業に対するアンケートを実施。来場者、出展企業ともに75%以上から満足と高評価。

2. プライベートセミナーによる競争力強化支援

【目標】 プライベートセミナー：年間4回、先端施設見学会：年間2回開催。

【実績】 プライベートセミナー：ハイブリッドにて4回開催、先端施設見学会：2回開催。

- (1) 目標通り4回開催。AI、DX、モビリティと過去参加者へのアンケートで要望の高かったテーマで開催した。
参加者平均は27名、内、会場参加はコロナの影響もあり12名。講師、参加者同士の交流を目的に会場参加する参加者が多かった。
- (2) 前回展示会の産総研講演は昨年度に実施。今回展示会が年度末となり、対象となる産総研講演なし。
- (3) 4回ともハイブリッドで開催。すべての回で、講師と参加者が質疑応答、意見交換を行う懇談会と、講師と会場参加者による交流会を開催。
- (4) 最先端研究を行っている「NICT」と、経産省「DXグランプリ2020」に選出された「小松製作所」の先進的な2施設を見学。

3. WINKと連携しオープンイノベーション創出の場を提供

【目標】 WINKから生まれたアイデアのビジネス化を支援。

【実績】 第2部会会合において、過去技術賞受賞チームへのビジネス化支援を実施。

- (1) 第3回第2部会会合にて、技術賞受賞チームからの取り組みプレゼンを行い、会合参加企業から技術やビジネスの観点から質疑応答、助言提供。

3. 企画広報部会(企画・広報事業)年間活動報告

2022年度 事業計画

1. “WINK”コンテストを通じたオープンイノベーションの場の更なる充実
 - (1)広報活動強化による参加チームの多様性、応募数の確保
 - (2)ビジネス化に向けたアフターフォローの強化
2. 公的研究機関、独立行政法人、大学、経済団体等との連携による戦略的情報発信
 - (1)外部団体との連携による各種セミナーを通じた最先端技術の情報発信
 - (2)参加者の属性やアンケート結果等の定量的な分析による企画内容の継続的な改善
3. 地域間連携及び団体間連携による更なる活動基盤の強化
 - (1)第11回全国組込み産業フォーラムによる沖縄地域との連携と団体間交流
4. 部会施策の広報支援やプロモーションによる機構のプレゼンス向上
 - (1)機構主要施策のプロモーション継続と各種メディアを通じた情報発信
 - (2)関連団体イベントへの共催・出展・後援などを通じた情報発信
 - (3)ESIP共創サロンを通じた産学官・会員間の共創創出と交流活性化
 - (4)広報機会の増加による研究会の活性化

2022年度の実績

1. “WINK”コンテストを通じたオープンイノベーションの場の更なる充実
 - 【目標】応募チーム15チーム以上(学生・非会員層から5チーム)、過年度を含めた受賞チームに対するビジネス化支援(1件以上/チーム)。
 - 【実績】応募:12チーム(内 学生・非会員層 8チーム)、希望する受賞チーム(3チーム)を対象にビジネス化支援2~4件/1チーム。
 - (1)会員企業の人事育成担当部門へアプローチするも応募チーム数不達(対計画80%)。
 - (2)部会や機構イベント等における過去受賞チームのプロモーション。
2. 公的研究機関、独立行政法人、大学、経済団体等との連携による戦略的情報発信
 - 【目標】外部団体と共催等によるセミナーの実施[3件]。
 - 【実績】関経連・産総研他と共催等によるセミナーの開催[4件]。
 - (1)サイバーセキュリティトップセミナー、共創サロン、スマートモビリティセミナー、第11回全国組込み産業フォーラム [4件]。
 - (2)属性に応じた講演に対する評価を実施。
3. 地域間連携及び団体間連携による更なる活動基盤の強化
 - 【目標】第11回全国組込み産業フォーラムの開催と既存連携団体との関係強化、新規連携団体の拡充。
 - 【実績】(特非)沖縄地理情報システム協議会と共同での主催により初のハイブリッド形態にて開催。
 - (1)組込み関連団体、産総研、経産省等の既存連携団体との関係強化、新規連携2団体との関係を構築。
4. 部会施策の広報支援やプロモーションによる機構のプレゼンス向上
 - 【目標】各施策での記事掲載[9件]、外部イベントでの情報発信[3件]、交流活性化、新規研究会の立ち上げ[2件]。
 - 【実績】各施策での記事掲載[10件]、外部イベントでの情報発信[6件]、交流活性化、新規研究会の立ち上げ[0件]。
 - (1)新聞:組込み適塾、総会、WINK、共創サロン [9件]、関経連ホームページ:WINK[1件]。
 - (2)組込み適塾他機構施策紹介:WINK2022他[3件]、組込み適塾電子資料他配架:ASIFフォーラム他[3件]。
 - (3)第1回共創サロン(@QUINTBRIDGE)にて参加者によるピッチを開催、会員・非会員の交流の場を提供。
 - (4)部会会合等で制度に関する情報発信を行うも立ち上げに至らず。